

## 第二回 佐々木正美氏研修会

「自閉症の人が地域で生活するために ～理解者に恵まれて～」

## 第二回 佐々木正美氏研修会

テーマ：「自閉症の人が地域で生活するために ～理解者に恵まれて～」

講演：佐々木正美氏（児童精神科医、川崎医療福祉大学教授）

日時：2012年4月28日 14:00～16:00

場所：練馬区立勤労福祉会館

司会：新井豊吉（特別支援学校教師）

司会者： 皆さん、こんにちは。

本当に大勢の方々にいらして頂き、嬉しく思います。

昨年の10月に第一回の佐々木正美先生の講演会を開きました。その時、皆様からアンケート・ご質問を頂いておりましたが、講演の後の20分程しかお答え頂く時間がありませんでした。先生にご相談しましたら、折角ですからその質問に答えるだけの講演会を開きましょう、とおっしゃって下さり、今回実現する運びとなりました。

お配りしました冊子には、その時の皆さんお一人お一人のご質問が全部入っております。更にその他に私たちが日頃保護者の方々や同僚から寄せられたものも加えて書かれた「質問集」であります。本当に、これは生の声です。このことについて先生に答えて頂いて、それをメモに執って頂くと、会が終わった後に一冊の自分なりの参考書というか資料集が出来上がるのではないかという思いで作りました。

今回の講演会の趣旨は、このような事がございます。ご質問がたくさんありますので、全部はご紹介出来ないかもしれません。そうしたらどうするか、それはまた佐々木先生とご相談します。

急ぐわけでもなくしっかりと読みながら、進

めていけたらなと思っています。中には似たような質問もたくさんありますので、それらはまとめて答えて頂くという形にしていきたいと思っています。

この「質問集」について少しお話しします。表紙がありまして、一枚めくりますと、佐々木先生のプロフィールがありますので、お読みください。その下には、ゲリー・メディホフ先生とおっしゃる、佐々木先生ともとても親しい、TEACCHプログラムの先駆者であります、その先生と少しメールのやり取りをしております、今回佐々木先生の講演会を練馬で開くのですよと知らせたら、長いメールが来て、とってもそれはいいことだということでしたのでその部分だけここに載せさせて頂きました。

そしてずーっと質問が続きます。便宜上、自閉症についてとか、パニックについてと分けてありますけれども、厳密に分けたのではなく説明し易いようにした程度だにご理解下さい。

一番後ろの裏表紙に、私達の団体の説明が書いてあります。何の団体でもありません。それぞれいろいろな職種の人達が、自由に、こんなことをしたい、こんな人と呼んで話を聞きたいという思いで集まって、仕事の後集まって会を設けているという自由な団体です。ですから、自主研究会と名付けて、どこにでも出向いてい

くし、大きい会場でもするし、小さな喫茶店でもするという、もし何かあれば集まれる人がパッと集まって、出来るだけ力になりたい、一緒に考えたい。そういう趣旨の団体です。

それでは、始めたいと思います。

佐々木先生、どうぞよろしくお願い致します。

## 【 講演 】

皆さん、こんにちは。

前は、自閉症あるいは発達障がいスペクトラムと言われる人達の共通した特性についてお話し致しました。自閉症とお呼びする人達はこういう人達です、ということをお話ししました。私達がどういうふうに接したらいいか、アウトライン的なことをして、それで時間が終わりました。最後に少しご質問を頂いてお話ししていたのですが、その時にご質問を必ずしも十分にお受けすることが出来ませんでした。それで、今回はご質問だけにお答えする会に致しましょう、と言って帰りました。そうしたら、今回この会をご計画下さったのです。いい会になるようにと努力をしたいと思います。

ご質問下さった方々は、それぞれがとても真剣にお尋ね頂いていることと思います。出来るだけそのご質問のご趣旨に沿えるように、私自身の 40 数年の経験を通してお答え出来る範囲内で出来るだけ丁寧にお答えしたい、とこういう会にしたいと思っております。大勢の方がお集まり頂いて聞いて下さるのは大変光栄なことです。感謝致しております。ありがとうございます。

## <自閉症について>

### Q1

自閉症の人は昔からいたのでしょうか？ それとも昔は少なくて現代になって増えてきているということは言えるのでしょうか？ 増えているとしたらその原因は何でしょうか？ (同様質問多数)

### Q2

自閉症は遺伝が関係していると聞きます。親の両方やどちらかが自閉症だったりすると子どもは自閉症として生まれやすいのでしょうか？

(施設職員 20代)

こうだ、と断定して申し上げられる原因は、まだ分かりません。この領域で働き研究している世界中の方が、疑問を持ち、調査研究をしていらっしやいます。

「この人は自閉症です」と思える方に出会う機会が、非常に多くなりました。学校の先生、クリニックで働く医療従事者、福祉施設の方などが、大変多くの自閉症と言われる人にお会いするようになりました。

それでは、自閉症の人が増えたのでしょうか？ 私は 77 歳になるのですが、自分自身の子どもの頃を振り返ってみて、周りに自閉症と思えるような人に出会った記憶が殆ど無いのです。で、昔は少なかったが今日はこんなに増えた、という考えが成り立ちますね。

もう一つの考えは、以前は自閉症とは考えず、少し変わった人と思っていたけれど、今振り返ってみれば、あの方は自閉症だったのだ、というふうに年月を経た今になって気がついて自閉症と言われるようになった。もう高齢になられて、あるいは働き盛り、あるいは中年と言われるような、壮年期を迎えるような年齢になって初めて自閉症だと指摘される人もいるので

す。自閉症の人達に、私達の気付きが敏感になったのです。

ところが、そういう感覚だけで、これほど多くなされたことが説明出来るかという、これもなかなか難しいのです。

40年くらい前に、私は所沢にある国立秩父学園という施設で働いておりました。今で言えば知的障がいの人達の施設でした。数年間働いて、入れ替わりの人も含めて101名の人達・子供達に出会ってきました。私達の当時の常識で診断分類・原因の検討検索を致しましたところ、自閉症の特性を持った知的障がいの人達の人数は12名でした。10%ちょっとですね。ところが今は、秩父学園の子供達の中で自閉症と言われる人達は、半数を超えているのです。

それは、予防可能な人達が減ってきたことです。以前は、日本脳炎、あるいは結核性髄膜炎、あるいは出生時の難産、等々の自閉症以外の理由で後遺症のために知的障がいになる人が多くいらっしゃいました。でも、自閉症の人達の知的障がいの人達の場合には、理由や原因が何も分かっておりませんので、予防法も分からないし、その他の知識がまだまだ私達は不十分であるのです。そういう中で相対的に自閉症の人は増えている、と考える人もいます。

けれども、それにしても説明出来ないほど今日多いという印象を持つ方が多いですね。

そうすると、やっぱり今日私達が住んでいるある種地球環境によるのでしょうか。日本だけの現象では無く世界どこの国に行ってもそうありますが、例えば温暖化現象一つを取りましても、あるいは大気汚染一つを取りましても、ずい分と変わってきました。そういう変化の中に、自閉症の人を生み出す原因があるかもしれない、という人もいます。

そして、遺伝の問題であります。自閉症の人のご家族や親類縁者の人達の中には、「そう言えばあそこのご家族のその子供のお父さんが

そういう傾向がある」とか、「お爺さんお婆さんにそういう傾向がある」とか、「伯父さんがちょっと変わったタイプの人だ」ということがかなりあるのですね。そういう意味合いでの、ある体質、遺伝的素質というようなこともあることも確からしいのです。

こういう諸々のことを全部入れて、何が原因だということが言えないのですね。

結局、基本的なところで何がと言われれば、脳の中樞神経の同時総合機能的なことがうまくいきにくいのです。

同時総合的な事がうまくいかない人は脳のどこそこの部分が弱いとか病んでいるということではなくて、それぞれの部分はちゃんと働いているのに、あっちの働きこっちの働き、ここの働きと向こうの働きを、脳の中で同時に出来るだけ早く組み合わせて作業をすることが弱いということなのです。

30年くらい前からそう思っていました、だんだん脳科学者がそのことを突き止めてきました。

脳の働きと働きを結ぶ、そういうところに自閉症発達障がいの人達の弱さがあるということも事実です。脳内のあちらの働きとこちらの働きを結び合わせる情報伝達物質の代謝生成が弱い。このことは確からしいのですね。

それは一つの原因であります、何故そういう代謝が弱いという体質で生まれてくるのか。そこに遺伝があるのか、何があるのか。環境の物理化学的な要因があるのか。こういうことは、実は今申し上げたように、曖昧です。そして、専門家によっても意見が異なります。

けれども私達が日頃接する人達の中に、自閉症と考えるのがいいなと思われる人が増えて来られたということは、事実であります。その背景にある本当の理由は分かりません。遺伝的なものを感じることもありますし、そうとは考えられない人もいらっしゃいます。なかなか難

しい問題で、こうだと断定的に申し上げることは出来ません。誰にもまだ答えられないのではないかと思います。



### Q3

息子は特別支援学校の小学部に通う自閉症児です。自閉症の人にテレビを見せ過ぎたり、ゲームをさせ過ぎたりすると自閉症の障がいが重くなると言われました。このようなことはあるのでしょうか？

好きなビデオを観ていると大人しくしてきて、その間に用事を足すことが出来るので助かっているのですが。 (保護者 30代)

先程のことから類推された方もいらっしゃると思いますが、脳のあちらの働きこちらの働きをあれこれ同時に使うのがこの人達は苦手なのです。それで一極集中的なことに取り組む人が多いのです。大人に成った人達の中には、一芸に秀でているというすごい能力の方がいらっしゃる。科学者の中にも、ある特別な領域の高度な専門家もおいでになります。別の表現をすれば、こだわって、そのことにだけ興味関心を持って、深一く集中していかれたのですね。私が存じ上げている人の中にも、人間国宝というか重要無形文化財に指定される方じゃないかと言われる方がいます。

一芸に秀でる、小さな方ですと TV ゲームとかテレビに集中する、そういう中で、ふとしたことからあるところに関心や興味が繋がって、そこに熱中して何十年か続けて、ある専門性を極められた。こういう方が世界中に決して少なくないのです。ゲームがパソコンに繋がってパソコンが強くなるなど、いろいろな人がいろいろな程度にいろいろなことに能力を持ち合わせて

いらっしゃいます。

一昨年春に、東京大学が大学の中に発達障がい者支援室を作りました。東大の入学試験に合格してくる人達の中にも、発達障がいの方がいらっしゃる。いろいろな資料を取り寄せて歴史的に研究してみると、例えばニュートンは自閉症だった、モーツァルトも自閉症だった。その根拠はいろいろ聞いておりますが、「なるほど、言われてみるとそうなのですね」と思える節があります。エジソンもそうであった。エジソンは小学校を2度も退学させられたり放校の処分に遭ったりしている。学校に馴染めないけれども、あるところを極める能力が強かったのです。

横浜のある方ですが、その家のお子さんが、クルクル回る物がとにかく好きで、美容院や床屋のマークを見ると、そこにずーっと取り付かれたようにしていらっしゃって、ある時ある事をきっかけにして、横浜にある高名な陶芸家の所を訪問する機会があって、回っているロクロに取り付かれて、学校に行かないでそれに強い関心を持たれたのです。学校に行かせようとするととっても嫌がって騒いだ。その陶芸教室に興味を持たれて、星野亨斎(ほしのりょうさい)さんとおっしゃるその高名な陶芸家が、「どうぞ、いくらでもここにいて下さい」と受け入れて下さった。そうして大変優れた陶芸技術を身に付けて、ある地方のある釜元の陶芸家の立派な助手として、今働いていらっしゃいます。何年か前にご両親にお会いしましたら、「あの時、無理矢理に教育委員会の指示に従って学校に行かせていたら、今のこの子は無かったでしょうね」とおっしゃっていました。

そのように、何かに取り付かれる、これがこの人達の特徴なのです。狭い所へ、深く、強い関心を持たれるのです。脳の広範な領域を同時に使うような事をするのは好きではないのです。と言うより、できにくい方なのです。だ

から、足だけ使ってトランポリンでジャンピングするのが好きな子供がたくさんいますが、足と手を同時に使うことになると、途方も無く下手です。トランポリンなら一時間でも跳び続けて楽しんでいる。ところが、跳びながら綱を回すという出来ない。こういうふうに、あれとこれとを同時にするという事は出来ない、あるいは、しないのです。

あれとこれとを同時にしないということは、私はいいことだなあとも思っているのです。結婚したのに他所の人に重大な関心を寄せたり、なんてことは先ず自閉症の人はしないでしょ。それは自閉症でない人間のすることですね。

狭い所に強い関心を深く向けて行く。これが大きな特性であります。特性としてご理解頂けるといいですね。



#### Q4

先生は最近の講演会で発達障がいスペクトラムという言葉が使われていました。これは一人の人間をあまりADHDだ、LDだ、アスペルガーだと区別しないで一つの連続体だと考えたほうが良いということでしょうか？ (心理士 50代)

これも、いろいろお考えがあるし、難しい問題だと思います。

ご自分のお子さんが自閉症だという方がいらっしゃるとします。クリニックやセンターやいろいろな所へお子さんをお連れになって、ある所で「ADHDだ」と言われました、別の所へ行きましたら「いや自閉症ですよ」と言われました、うちの子どもは二つ障がいを持っているのですか？とこういうふうなことは決して珍しくありません。二つ障がいを持っていらっしゃるのでは絶対に無いのです。

一つの脳の機能の特性を、診断分類別に無理矢理分けたようなものです。どちらも同時総合機能が弱いのです。脳のどの部分の同時総合機能が弱いかによって、自閉症に見えたり ADHDに見えたり、多動が無くてADDと言われる状態に見えたり、学校に入っている特別な領域の学習が上手いかなくてLDと言われる特性が見えたり、と。これは親戚のようなものですね。一続きのものだと私は思っているのです。

こんなエピソードをご紹介します。1996年の暮だったと思いますが、アムステルダムでISSDDという学会がありました。子供の発達に関して研究する国際的な学会です。自閉症だけを研究している人達の集まりではないのですが、そこで自閉症の人の発達に関するシンポジウムを開きました。英国のマイケル・ラター、米国のケサリン・ロードなど4人の大変高名な研究者がシンポジストでした。4人のシンポジストから自閉症の子供の行動発達に関してそれぞれの研究発表があり、そのあとそれぞれの人の話をかみ合わせる為、ある所に注目して議論を進めていく役割を持つ指定討論者・フリーディスカスタントとして、また5人目の発言者として、私も参加致しました。

その一年ほど前に、英国のローナ・ウィングさんという研究者が初めて世界に向けて「自閉症スペクトラム」と言われる考え方を提唱されていました。それは、「自閉症とか自閉傾向があるとか、自閉的な人だとか、という曖昧なことを言うより、みな同一のカテゴリーの中の一つ、自閉症連続体・スペクトラムです」という考え方です。それで、「そうだなあ」という気持ち広がりがつあった時期でした。

このシンポジウムで、更に私はこんなふうな思いと考えを提言致しました。

「ADHDやADDやLDと言われる人達は、みんな自閉症と言われる人達との関連・繋がりの中にいらっしゃることが多いのです」



「私の臨床経験の中で、この人達はいろいろな意味で連続帯だと思います。そういう意味で、自閉症スペクトラムから発達障がいスペクトラムという考えを私は持っています」

「この人は ADHD だからこういう教育を、この人は自閉症だからこういう教育を、この人は LD だからこういう教育を、という区別を基本的には私達は致しません。みんな一続きの連続体の中にいらっしゃる人です。その人特性に従っていろいろな事を教育し、その人が日々生活し学んでいる文化の中で適切に適応していくことが出来るように、いろいろな事を支援しています」

「そういう意味で、発達障がいスペクトラムと言うほうが私はいいと思います」

「古い分類に従えばこの人達は ADHD が一番顕著です、自閉症と言われる特徴が一番顕著です、とこのように分けていったらどうですか。それはちょうど呼吸器の感染症があるときに、鼻炎ですか？咽頭炎ですか？気管支炎ですか？気管支肺炎ですか？本格的な大葉性肺炎ですか？というふうな思いと同じで、そのように考えたらどうですか」

そうしましたら、議論がとても活発になりました。そして、「その通りだと思う」と言う人はいませんでしたけれども、「そうは考えてはいけない」と言う人もいませんでした。そこでは時間が不十分で、結論は出せませんでした。

終わった後、廊下やロビーで多くの聴衆の方々に取り囲まれて、「面白い発想ですね」「どこからそういう思いになったのですか？」などいろいろなことを聞かれた事を思い出しています。

「ある所では、うちの子は自閉症ですと言われ、別のところでは ADHD と言われ、うちの子は二つの障がいを合併して持っているのですか」、とこんなふうには決してお考えにならないで下さい。連続体の特性です。また、いろい

ろな特性を兼ね備えているから障がいが重い、ということはありません。

皆様もいろいろな程度に、連続体の中にいらっしゃる方が多いと思います。私もそうですし、また私の子どもにも、自閉傾向が強い子が一人います。一番そういう特性を持っていないのが家内です。家内は、私が軽い自閉症だと言います。私も自分で軽い ADHD だと自覚しています。でも家内は、「あなたは決して軽いほうではありません」と言います。

自閉症であるということは、悲しい、辛いことではありません。長男が末の子のことを、一芸に秀でているところがあるね、と言っていました。我が家の子どもは自閉症を否定的に見ていないのです。

どうぞ、決して否定的に、マイナスにお取りにならないで下さいね。結婚して1人の奥さん、1人のご主人とずーっと暮らしていかれるのは悪いことじゃないでしょ？人間誰しも、いい面もあれば弱い面もあり得るという事をご理解ください。否定的ばかりには決してお取りにならないように。



司会者：佐々木先生はこうした質問の形式がお話しし易いということが良く分かりましたが、20ページある質問集のうち、まだ1ページしか進んでいなくて、「どうしようかな」と考えています。(笑い)

では進めます。

## <障がいの特性について>

Q5

自閉症の人も普通に恋愛をして結婚しているのでしょうか？  
(学生)

Q6

自閉症の人同士の恋愛感情は私達と同じなの  
でしょうか？ 将来自閉症同士だと結婚生活も難  
しいのではないかと思います。

(特別支援学校教員 20代)

私の知っている限りでは、両方いらっしゃいます。

ある家族に子どもが3人いて、自閉症の傾向が一番強い下の子は、「結婚は絶対したくない」と言うのです。「知らない人と一緒に生活するなんてことは、出来ない」、とはっきり言います。

一応、ちゃんとした仕事に就いて一定の収入を得られるようになって独立して働いているものですから、母親は「出来ることならいいお嫁さんを貰っていい結婚が出来たら」と思っているのです。折に触れて、「やっぱりあなたはいい人が見つかったら結婚するといいよ」と言います。が、その子は殆ど取り上げません。「知らない人と生活なんて出来ない」と繰り返します。

すると母親はしつこく言います。

「お父さんとお母さんも、知らない人だったのよ。でも、ある時出会って、いい人だなとお互いに思ったので結婚したのですよ。今後、あなたがそういうことが無いとは言えないでしょ？」

どうも、この子は本当に関心が無いようです。

ところが、とっても強く「あの人と結婚したい」と思って、苦しんでいらっしゃる人もいる

のです。「相手の人がその気になって下さらないからダメなの」、とこう言う人を数人知っております。

そして、私が本当によく知っている人で、いい結婚をして幸福に生活をしていらっしゃるご夫婦が3組います。その内の一組の方は、どう見ても二人とも自閉症だなあと思える人なのですが、お互いにうまく調和して気に入って生活していらっしゃるのです。あとの二組の方は、お1人のほうだけが自閉症でいらっしゃいます。

結婚は決してしたくないと言う人、是非したいと言う人、けどなかなかその気になってくれないと言っている人、それから結婚してうまくいっていらっしゃる人がいます。

ところが、結婚して、一人の方がどう見てもアスペルガーであるということで、家庭の中がいろいろなふうにごちゃごちゃになってしまわれて、ご家族皆さんで苦しんでいらっしゃるという方からのご相談が、実は今多いのです。

最初から「この人はこういう特性があるからこういうことを理解して配慮するといい」と分かっていたらこんなふうにはならなかったのでは、と思えることが多いのです。

いろいろな形で、いろいろな方が結婚に関係したり、結婚はしたくないとおっしゃったり、していらっしゃるのです。

ある地方の学校の校長先生からご相談を受けました。実はその奥さまも学校の先生でいらっしゃったのですが、奥様との人間関係をいろいろお話しされ、もう壊れてしまって、そして別居をしていらっしゃるとおっしゃるのです。

奥様のことをいろいろ伺ったら、間違いなくアスペルガーの方だと思えて、「奥様はアスペルガー症候群の方で、これこれこういう特性を持っていらっしゃる」といろいろ申し上げました。そしたら御主人はおっしゃいました。



「そのことが、最初から分かっていたら…」

お帰りになって、半年ほどしてからでしょうか、またお出で下さってこうおっしゃいました。

「私は妻に謝りたい。謝って、また一緒に生活をしたい」

「自分が無理解だったから、アスペルガーの特性を持っている妻のことを、絶えず非難したり嫌がったりしていた。妻は妻で、しょうが無かったのだ」

「佐々木先生のおっしゃる、いい特性を持っているのは確かだった。初めから分かっていたら、それを尊重して、弱い、ダメだ、と思われる所は自分がちょっと工夫して、努力して、ちょっと我慢してやってきたら、何でもなかったのに」

「また一緒に生活をしたい」

この方は、謝罪をして縁を戻したいと思い、奥様に連絡を取りましたが、受け入れてもらえず悩んでいらっしやいます。

様々の方がいらっしやるということを、皆様ご理解下さい。大切なことは、発達障がいスペクトラムの人の特性を理解することです。

「そういうことは悪意ではなくて、そういう特性を持っている人の自然な行為・行動だ」と分かって入れば、何でもないでしょうか？ ご夫婦であれ、親子であれ、先生と生徒であれ、職場の同僚や上司との関係であれ、特性を理解して良い配慮をして頂ければいいと思います。

結婚については、いろいろな方がいらっしやいます。



## Q7

時々顔を横に向けて目を反対側に寄せてどこかを見ているような目つきをします。何かを見ているようには見えません。何をしていますのでしょうか？ そのままにしておいても良いのでしょうか？

高い能力があることがはっきりしてきて、大人になってご自身のことを自由にお話することが出来る人達がいらっしやいます。この人達が共通して話されたことがあります。

「横目で見た時は、物が揺れずにピタッと止まって見えた」のだそうです。「真っすぐ見る時には物がフワフワと揺れて見えて不安定」なのだそうです。「大人に成った今はそうでも無いけれど子どもの頃はそうだった」、とおっしゃいました。横眼使いで見る人の全てがそうであるかは分かりませんが、私はそうおっしゃる方を3人存じ上げています。「子供の頃に、横眼を注意されたことがあったけれど、自分でそれを説明をしたことはなかった」、とおっしゃっていました。

自閉症の子供たちは、私達から見て不自然だなあと考えたことを「どうしてそんなことをするの。そんな事をしちゃダメでしょ」と叱られた時に、「僕はそうした方が、やり易いのです」と説明できる子供は殆どいません。普通におしゃべりが出来ているような子供でも言えないのです。とってもこの子達は可哀想ですよ。うまく説明出来る人はいないのですから。

大人になった時に、「あの時こうだった」と説明してくれる方は、勉強会の中でも大勢いらっしやいます。「子供の頃は、先生や親や友達にも言えなかった」と言います。

ちゃんと理由があるのだということを、なかなか言えないでいるのだということを、これを周りの方が分かってあげて下さるといいですね。

司会者：「ちゃんと前を見なさい」と職場で言っている人の顔はたいてい怖い顔なので、この子達はその顔は見たくないだろうな、と思いますね。

## Q8

視線が合わない子どもに対して「目をよく見て！」と言って視線を合わせる指導をしていますが、なかなか成果があがりません。顔を押しえると眼だけが違う方向を見えています。視線を合わせていることを避けているようです。話をしている相手を見るようにさせたいのですがどうしたらよいでしょうか？  
(学童保育職員 20代)

子供に、「どうして視線を合わせられないの」と言っても、まず答えられないですね。大人になって高機能で能力の高い人、自由にモノが言えるようになった人たちが、子どもの頃に横眼使いをしていたことや、人と視線を合わせなかったことを、ご自分でちゃんと覚えていらっしゃるのですね。

「今はそうしてないけれど、子どもの頃そうしていた」

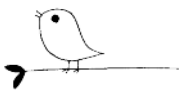
「人の目を見た時の気持ちを何と説明したらいいのかわからない。気持ち悪さと言うか、怖いと言うか。何とも言えない意味不明な、分かりにくいと言うか。とにかく嫌だった」

「最悪なのは、顔を押しられてじっと顔を見つめられることでした」

拷問に近いですね。そんなことをしている人がいたら、それはとてもひどいことをしているのだという事を分かってあげて下さい。

子供の頃は、「何故にこうだ」なんて言えないですね。辛いことです。

いつか、視線を合わせられるようになりますよ、この方々は。



## Q9

自閉症の高機能の方も、ロックングや手をひらひらさせる等、特有な行動があると聞きます。佐々

木先生は、これらを当事者の方々が何のためにを行い、どのように必要なものであるとお考えでしょうか？

また、当事者の方にとっての、そうしている時のお気持ちをご存じでしたら教えて下さい。成人支援の場では、それらの自閉症特有な行動も、休憩として、心理的な余暇の一つとして、情緒安定を目的として、重要視し、時間と場所を区切って設定するような実践をよく聞きます。

私の中学部の生徒さんも高機能ですが、その時の気持ちや必要性の言語化は出来ないため、周りの教員と生徒さんを共通理解出来ないことに悩みます。自閉症特有な行動の背景を理解するところから、その人を尊重した支援が始まるのではないかと考えています。(特別支援学校教員 40歳)

体のある種の小さな動きの反復をチックと言いますが、それはそうすることで落ち着くのですよね。慢性的にそうしているのをチック症と言いますが、事の起こりはたいてい不安からくるのですよね。常同反復行為と言いますが、それが顔面とか手足の部分にとり、狭い領域に限られて繰り返されるのをチックと言いますね。一番多いのが、まばたきですね。石原都知事を見ているとよくお分かりだと思います。ビートたけしさんも、おそらくそうですね。きっかけは、多くの場合ある不安を解消するために始まって、それが定着するのですよね。

ちょっと思い浮かべてみてください。心配になると、ウロウロウロウロと動かないではいられないという人がいますね。「静かにしてなさい」と言われても「じっとしてられないんだよ」「居ても立ってもられないんだよ」と言う人がいますね。体の一部を繰り返し同じように動かすことによって、急激な不安を遠ざける神経の特性が人間にはあるわけですね。野球の監督が自分のチームがピンチになると、ダッグアウトの中で動物園の熊みたいに行ったり来

たりなさっているなんてことがありますね。常同反復行動、常に同じ動きを繰り返しているというのは、大小問わず不安を解消する行為ですね。貧乏揺すりなどもそう言えますね。急性の場合はチックとは言わないのですが、それが慢性に定着した場合にチック症と言いますね。

事の起こりは不安から来ます。その不安を和らげるために起きる行為なのです。

「何が不安なの？」と聞いても駄目ですね。と言いますのは、精神医学の用語の中に「不安」と「恐怖」があります。どちらも恐れです。何を恐れているのかが分かる場合は、恐怖と言います。赤面恐怖、対人恐怖、高所恐怖、と言いますね。不安と言うのは、何を恐れているのか対象を明確に出来ないけれど心配だ、というものです。

一般に、チック症になっていく人は、何を恐れたと言う恐怖症ではなくて漠然とした不安がある、と言っていいと思います。そういうものが、私達皆さんには程々には皆あるのです。不安の無い人は、基本的にいないのです。不安が度を越せば病的になるし、度を越してはいない人もいるわけですね。周りからすると、いかにも脳天気に見えるわけです。どちらも、良い悪いでは無くて、中庸を得ているのがいいわけですね。

何かのはずみで不安が強くなったという時に、私達は常同反復的な行動を起こすということを知っておいて下さい。そうしていると不安を和らげることが出来るのです。人間ってそういうものですね。



#### Q10

特別支援学校小学部3年の男子です。言葉のない自閉症児です。ポテトや肉、ジュース、卵など

決まったものしか食べません。勧めると泣いて騒ぎます。このままでいいのでしょうか？ 今は元気ですが、栄養のバランスが偏って病気になりやすい体に育ったりしないでしょうか？（保護者30代）

このことも、かつて世界の専門家達から随分議論されました。近年は、議論がされなくなりました。それは、自閉症の人が目立った強い偏食のために、はっきりした栄養障害になることが殆ど無いからです。

このご質問を下された方にお聞きしたいのですが、お子さんは割合お元気なのではないですか？ 何でも食べるけど病気がちというよりは、はるかにいいですよ。

いいじゃないですか、好きなものを美味しく食べて元気でいらっしゃる。言ってみれば、これはお母さんの漠然とした不安ですね。お子さんが悪い方向に向かっているような兆候が何も無いのに、そうおっしゃっておられるのでしょうか？

どうぞ、お好きなものを十分食べられるように、そして好きな食材を使って調理の仕方を工夫して頂いて、ご本人が苦痛に感じないように、食事を不愉快なものにしないであげて下さいね。人生の大きな喜びの一つです、食事は。

学校などで偏食の矯正とか指導をなさる先生がいらっしゃる。いろいろな考えがあつていいと思います。でも、私は余計なお世話だと思います。美味しくないと無理に食べさせられたら、あるいは美味しいものを取り上げられたら、たまらないでしょう？

味覚も、聴覚も、触覚もいろいろな所がいろいろな程度に違う人が自閉症の人にはいらっしゃるのです。ところが、自閉症でない私達はそれが分からないのですよね。この子達は味覚が一般の子供と違って当たり前です。分かっている努力をして下さい。何をどのように調理したら、美味しく栄養のバランスも良く食べ

られるかを、こちらが工夫してあげて下さい。

自閉症の人を育てるには、私達の文化の中に引っ張り込んで来ることで無く、私達が自閉症の人達の文化に近づく努力をすることです。



#### Q11

特別支援学校中学部の男子です。言葉はありません。音に過敏です。とくに赤ちゃんが泣く声や犬の鳴き声が嫌いで、外で鳴き声があると家から飛び出して行って犬を叩こうとします。このような傾向は無くなっていくのでしょうか？(保護者 40歳)

#### Q12

特別支援学校中学部3年の女子です。音過敏・触覚過敏について伺います。体育館等、音の響くところが苦手です。耳当てを試してみましたが、触覚過敏があるため不快感があるらしく、着けてくれません。他にどのような方法があるのでしょうか？

(保護者 40代)

#### Q13

4歳の高機能自閉症の男の子です。明るく元気な子なので、一見して障がいがあるようには見えません。音に対して過敏であり人の話し声でも耳を塞ぐので、外出先で耳栓を使用することもあります。本人が辛い時のために…とイヤーマフの購入も検討しています。他の人からすれば「過保護」だそうで、理解が得られにくいです。

こうした「目に見えない辛さ」に対する配慮が必要な場合、どう対応してあげたらよいのでしょうか？

(保護者 来年度、幼稚園入園を検討中)

「過保護だ」と言う方は、よく考えて頂きたいのです。そういう体質なのですから、仕方がないのです。

感覚器が過敏である部分と鈍感である部分

とがあって、私達と違うのです。自閉症の人達は、いろいろな感覚が、知覚が、敏感である部分と鈍感である部分とがそれぞれいろいろな程度に個人差があるのです。これは、仕方がないのです。それを治そうとしても治りません。どのように防衛してあげるのがいいかを考えてあげて下さい。光に非常に過敏な人は、色の強いサングラスを掛けますね。音に敏感な人は、嫌な音を避けるためにイヤーマフを付けたかヘッドホンを付けたか、大好きな音楽を聴くことで逃れるとか、いろいろな方法をとりますね。その感覚は、仕方がないのです。

昔は、音をたくさん聞かせれば、そのうち慣れてくるから、なんてことを言う人がいました。本当に無知でした。無知だからこんなことが出来たのでしょうか。こんな、無茶な事をした人がいましたよ。学校の運動会のピストルの音が耐えられず、参加できない子供がいました。いい学校は、ピストルを止めて笛にして下さったり、手で合図をするという方法に替えるでしょう。それが、正解です。それを、ピストルの音に慣れさせるなんてことをした人がいたのです。本当に、ひどいことをしましたね。愚かなことです。人格まで変わってしまいますよ。対人恐怖になりますよ。

こちらが合わせてあげて下さい。それは過保護ではありません。



#### Q14

不調の背景が気圧や蒸し暑さなど自然現象からくる場合、どの様に支援を行ったら良いのでしょうか？

((施設職員 40代)

低気圧に弱い人、高湿度に弱い人がいらっしやいますね。寒さに強い、暑さに弱い。これは、



もう仕方がないですね。そういう体質なのですから。

ある一連の特性を持った方が大勢いらっしゃるのと、生きていき易いのですよね。花粉に弱い人がいる。何でも無い人から見れば、「何で花粉なんか弱いんだ」となりますね。今ほど花粉症の方が多くなかったら、大変ですよ。今は大勢お仲間がいらっしゃるから、大手を振って花粉症の人は街を歩いたりいろいろしていらっしゃるかもしれませんが、自閉症の人の場合は、少数なところがこの人達の弱いところですね。

低気圧、高湿度、暑さなどが苦手なのですから、それがこの子達の特質ですから、出来るなら避ける努力をしてあげてください。避けられないのなら何か好きな事に打ち込むことでその苦痛から逃れるような努力をしてあげてください。治らないのです。それが特質ですから。

あるものを食べたら下痢を起こすとか、痙攣を起こす人もいらっしゃるのです。それは仕方がないのです。だから、治そうとはなさらないで下さい。



#### Q15

**手先の不器用さや、物をしっかりと見ない癖があります。改善する方法を教えてください。**

#### Q16

**勉強をしても集中力が続かず、困っています。どうすれば集中出来るようになりますか。**

これは、みんな同時総合機能の弱さなのです。持って生まれた特性ですから、手先の不器用なのは、仕方がないですよ。器用な人から見ると、不器用な人にイライラするでしょうね。お箸の使い方が下手、ボタンをはめるのが下手。でも、

それは仕方がないのです。同時総合機能の弱さなのですから。

握り箸というのは、5本の指に同じように力を加えるから楽なのです。普通のお箸の持ち方は、5本の指がそれぞれ違った動きをするのですね。ノースカロライナを訪問したときに、日本人だからと箸を出して下さいました。スプーンやナイフやフォークもあって、「こちらもお使い下さい」と言ってもらったけれど、私は箸を使いました。サラダの中にトウモロコシが出ました。粒がバラバラになっていました。向こうの人は、ザーっとスプーンですくって食べていました。私は一粒々々箸の先でつまんで食べました。そうしたら、向こうの人が「曲芸だ」と言って驚きましたよ。これは器用不器用と言うより練習によってこうなっているのですね。向こうの人は箸を使うということに関しては、言ってみれば不器用ですよ。でも、仲間がいれば、不器用でも何でもないのでよね。

知人にサリドマイドの方がいまして、足の指にスプーンをはさんで召し上がっている。小さい時からそのようにしておられ、体が柔らかくて足の指にはさんだスプーンを口に持って行って召し上がっている。練習によってある程度はどのようにもなるのでしょね。

でも、不器用なのが発達障がいです。指先の不器用はすぐ分かりますけれど、対人関係の不器用さとか、人間関係の不器用さとか、空気を読む不器用さとか、みんな不器用さですが、すぐには分かりにくいですね。ある意味で、自閉症は広範囲の不器用さです。

ところが不器用な人は、あるところに、集中して、とっても深く能力を発揮することが出来るのです。でも、ちょっと視点が違うところになると、出来ない。同時総合機能の弱さは「不器用さ」、と理解して下さい。人間関係や社会的常識を適応していくこと、いろいろなところでのいろいろな局面での精神心理的な行動行

為、手先、指先、全身の運動、みんな不器用です。脳の中の神経細胞間の繋がりが、広く自由自在に臨機応変にいかないから不器用なわけでしょ？ それは何もかもうまくいくのなら、自閉症ではないですよ。



#### Q17

現在、特別支援学校中学部の男子生徒です。思春期になると発作が出るから注意するようと言われました。現在定期的に通院はしていません。年に一度くらいは病院に行って脳波を測ったほうがいいでしょうか？ (保護者)

自閉症の人は自閉症でない人に比べて癲癇(てんかん)を合併する率は少し高いです。もちろん非常に多くの人が癲癇を持つというわけではありません。一般の人は1%くらいでしょうか。自閉症の人は10%くらいかもしれません。でも、小さい時から脳波検査をして、全く異常が無ければ、1年に一回検査をしておかれれば良いと思います。大きくなるまで異常がなければ、二年に一度というふうになさって良いと思います。

多くの人は、癲癇を合併しないのです。10倍多いと聞くとびっくりなさいますが、もともとが少ないのですから。経験のある医師は、脳波の状態を見てきちっと判断してくれます。



#### Q18

小さい頃は言葉が出ていたのに成長するにしがって言葉が出なくなったという話を聞くことがあります。どうしてこのようなことが起こるのでしょうか？

か？

(特別支援学校教員40代)

折れ線型、クニッケンタイプ、セットバックタイプ、ある時から発達が急に下降線になる、そしてある時からまた発達の方に向かっていくというタイプの自閉症の方が、たまにいらっしやいます。以前は、多くいらっしやいましたね。今は少なくなりました。何故か、脳の中の発達のメカニズムが、ある時止まって退行して、今度はまた上を向いて行き、それから止まることは無い、という特別なタイプを取る人が世界中にいらっしやるのですね。基本的に自閉症は脳内の情報神経伝達物質の代謝の問題だと思うのですが、順調に進んでいたのが、ある時代謝が悪くなる、そしてまた良くなるという事があるのでしょうか。すべてそれで説明できるかは分かりませんが。



#### Q19

教職員の自閉症の理解を促すために、自閉症のある人の苦労だけでなく「良さ」も体験できる発達障がいの疑似体験研修をしたいと常々考えています。佐々木正美先生の演題に惹かれてぜひ聴講させて勉強させて頂きたいと思っています。

(保護者・支援者)

いろいろな障がいは、本当の体験は出来ないけれど疑似体験は出来ますね。午前中の3時間アイマスクを付けているとか、耳をふさいでみるとか、一日中一度も車椅子から降りないでいるとか。そして、周りの人に手伝ってもらう場合もあれば自分で努力したりという体験ですね。

ところが、自閉症の疑似体験は難しいですね。自閉症の人は目で見ること、文字の世界、が強



い。私の大学でも入学試験をしますが、ひねくっていない、オーソドクスな、まともな真っ直ぐな試験なら一回でパスする。でも、自動車の運転免許の試験は、2回3回落ちる人が珍しくない。問題がひねってあって、落とし入れるようなところがある。そういうところに発達障害の人が引っ掛かってしまうのです。まっすぐな問題文ならいいのですがね。裏を見る魂胆を見るということは苦手です。

なかなか自閉症の人の疑似体験が難しかったから、自閉症の人への支援が他の障がいの人に対する支援よりも遅れたのでしょうかね。

例えば、道路とかプラットホームとかに点字ブロックを打つということは、目の不自由な方から提案される前に私達からアイデアとして設置することが出来ますね。肢体不自由の人のために、段差をなくしてスロープを作るということも、肢体不自由の人から教えてもらわなくても考えつきますね。ところが、自閉症の人のためにどうするこうするというは、本当のところは自閉症の人から教えてもらわなければ分かりにくかったのです。

疑似体験が難しいので、私達は今もって本当に理解出来ているかという出来ていないと思います。ご本人の方々から教えて頂いていることが大きいのです。半世紀以上に渡る専門家達の経験や研究の成果もありますが、私達には分からないことがとても多いのです。

だから、私達が想像力を豊かにして、カバーしていかなければいけないと思いますね。

※「自閉症の人と触れ合うことが何よりも大切な体験ですね」、と会場の当事者からご発言がありました。



## <こだわりについて>

### Q20

特別支援学校中学部の男子です。小学部の頃から近所のマンションのエレベーターのボタンや校内の非常ボタンを押してしまい困っています。どうしてそのようなことをするのでしょうか？ 叱っても繰り返してしまいます。（保護者40代）

### Q21

特別支援学校高等部の男子です。言葉はありません。学校では同じ場所を行ったり来たりしたり、何回も立つ位置を直したり、着替えも何度もやり直すのでとても時間が掛かってしまいます。家庭では母親がご飯を作るときの立ち位置までこだわって、少しでもずれていると「アー、アー」声を出して位置を変えさせたりします。指示に従わないと、どんどん大きな声を出すようになってパニックになってしまいます。短期入所をしたのですが、施設内ではそのような様子は全く見られませんでした。なぜそのような行動をするのでしょうか？ どうしたらよいのでしょうか？（特別支援学校教員30代）

### Q22

トイレの後に手を洗う、お風呂で頭を洗うといった基本的な行いを3歳の息子はかたくなに拒みません。歯を磨くことも同様です。根気強く、いろいろなアプローチを試みましたが、うまくいきません。

時間が解決してくれるのかもしれませんが、嫌がるからと言って放っておくこともできず、親としては心配です。ストレスがたまります。どうしたらよいですか。（保護者）

簡単に申しますと、施設のほうがはるかに『構造化』がなされていますね。こういうとこ

ろではこうする、ああいうところではああする  
という形がしっかり出来ていて、施設では生活  
の習慣をつくり易いのです。街に出ると広いし、  
漠としていて、周囲の人達はこういう習慣を持  
って日々生きていますよということを自閉症  
の人が読み取るのは非常に難しいですね。だから、  
一般社会で安定した適応行動というのは、  
余程高機能で、上手に育てられてきた人でない  
と自閉症の人にはなかなか難しい。この人達は、  
狭い世界でその習慣を繰り返すということの  
ほうがやり易いわけです。

例えば家庭内で、自閉症の人達が安定して日  
常生活を送るためには、2本の習慣みたいなもの  
を身に付けていらっしゃるといいのですね。  
一つは習慣になっている役割を持っていらっ  
しゃること。もう一つは、このようにしていれ  
ば家の中で落ち着いて安定して生活が出来る  
という習慣です。周囲の人にとって不愉快では  
ない、煩わしくないというふうな習慣をですね。

今ここに出ている、ボタンなら何でも押して  
します、ベルなら何でも押してしまうというこ  
とですが、エレベーターのボタンとか非常ボタ  
ンというのは、周りの人が困る習慣ですね。

あえて言いますと、自閉症の人がよほど高機  
能で年齢が大きくなってこれないと、習慣が  
しっかり身に付いていない場面であるいは場  
所で、そこに適応していくことは大変困難です。  
それは、その場その雰囲気や臨機応変に適応す  
るということが一番出来ないからです。自閉症  
の人が一番困難なのは、同時総合機能、臨機応  
変機能です。

習慣を繰り返せばよいという環境ほど、善き  
につけ悪しきにつけ、この人達は安定なさるの  
です。

視覚的に目で見て習得していくのが得意で  
すから、ボタンを押すということは一番分かり  
易いですよね。そうすることで気持ちが安らぐ、  
安定するというのが自閉症の人の大きな特性

ですから、困った習慣ではなく、いい習慣を付  
けてあげることが大切ですね。

TEACCHでもよく言います。こちらから見て困  
ることを“止めさせようとする発想”では、ほ  
とんど成果が上がらない。「それはダメです」  
と言うのではなく「こうするといいですよ」と  
いうようなものをコツコツコツ身につけて  
あげる。「その時には、こうするといい」と  
いうものが習慣になるようにその場でお教え  
になっていくのがいいですね。習慣として身に  
付いていることが発揮出来ない環境に連れて  
行って、そこで適応しなさい安定しなさいなど  
と要求しても出来ないのです。

自閉症の人は、いい意味でも悪い意味でも同  
じことを繰り返すのです。繰り返している内容  
が良かったら、それこそ一芸に秀でて行くわけ  
ですね。いい意味でだんだんその深みに入っ  
ていって、ある特別な領域の高度の専門家にな  
っていく。そういうふうな方向にうまく導けな  
いときに、困ったことを繰り返してしまうとい  
うことになるのですね。こういうことが基本的  
にこの人達の特性だということを私達はしっ  
かり分かったうえで、日々何をどのようにお教  
えになるか、ということですね。

いつもお母さん達に言っております。「これ  
が身に付けてくれたらいいな」「このことなら  
毎日やってくれたらいいな」と思えるものから  
順番に教えて下さい。「何かを止めなさい」と  
言うより「これを出来るようになりなさい」と  
言う方がずーっといい。何が出来るようになる  
のがいいかを日々大切に大切に思って、お子さ  
んを育ててあげて下さい。と。



## Q23

知的に重度の自閉症児です。ある場所に行く

決まってお漏らしをしたり空えずき(実際にもどすこともある)が出るようになりました。どうしたらよいでしょうか？

#### Q24

自宅でない家や児童館など慣れていない場所、人がいるところに行くとき動き続けて、指示が入り難くなります。食事は数分しか座りません。こんなときはどのように指示をすると本人に負担は無いですでしょうか？

#### Q25

特別支援学校の自閉症児です。コミュニケーションにおいて誤学習をしているようです。たとえば相手の反応があるまで、しつこく付きまといまいます。期待している答えを言わないと不機嫌になります。そのような生徒がどの学部にも一人くらいはいます。どうしたらよいでしょうか？(特別支援学校教員)

先ほど申し上げたように、ここに来ると吐いたりここに来ると何々するということですね。「やめなさい」という発想では決して身に付きませんから、「ここでは吐いちゃダメ」と言うのではなく、「ここで何々をしましょう」というふうに、しても良いことをお教えにならないと、そこに連れ出すことは出来ません。

自閉症の人達は、何をしたらいいか分からない場合、他の場面でこうすればいいと分かっていることをしてしまうのです。

ここに来たら何がイエスなのかを教え、何がノーなのかは言わない。ここに来たら何をするのがいいかを教えて下さればいいのです。その時にご本人がひどく嫌がること、苦痛なことを指示してはいけませんね。こちらがしてもらいたいことばかりを考えるのではなく、それをしていてくれるならまあまあいいかな、本人にとっても「これならいいな」と、もっと言えば喜びになるようなことを見つけてあげて下さ

らないといけません。何がイエスなのかを、教えるのです。

「何がノーなのかを教える」「これをしてはいけなさいと叱る」、という発想で教育をしている教師は最悪の教師だ、と TEACCH では言いません。

「吐いちゃダメ」

と、いくら言ってもダメなのです。ここへきたら、この子が大好きな絵カードか何か、玩具か何かを鞆から取り出してみるとか、何でもいいのです日常生活の中でこの子が喜んでしてくれるものに置き換えてあげてください。

「このことを止めなさい」

と、言って止められるようになる発達障がいの方は滅多にいらっしゃいません。むしろその習慣が強くなります。こだわりが強くなります。自閉症の人を育てることが上手な人と下手な人との大きな分かれ目は、下手な人は禁止することを一生懸命している、上手な人はごく些細なことでも「これを出来てくれたら」というようなことをいつでも考えていらっしゃる、ということなのです。

禁止をすると、より執着が強くなりますよ。何がノーなのかではなく、何がイエスなのかを教えて差し上げて下さい。



## <パニックについて>

#### Q26

当事者がパニックを起こしたときに、周囲の人やご近所や電車内など他者へ説明するときどう

したらよいでしょうか？ またパニックの時に当事者にどのように対応したらよいでしょうか？

有効な方法がありましたら教えてください。

(同様の内容多数)

Q27

完璧主義でパニックになりやすいのですが、よい働きかけはあるのでしょうか？ またパニックに有効な薬はあるのでしょうか？ (支援者)

Q28

感情の波が激しく、1日の中でも急に大声を上げ泣くことがあり、前後の様子を注意して観察していても、原因がつかめません。担任の先生が曰く、フラッシュバックするような認知は出来てないらしく…どう対応したらよいのかわかりません。アドバイスをお願いします。

Q29

娘2才が、現在療育センターに週1で通所しています。もともと、夜泣きもひどかったし、何よりものすごく癩癩がひどかったことが悩みで、今に至りません。

最近、外出すれば娘がやたら叫び、泣くこともあって、かなりの確率で見知らぬ人から、必ず、うるさい、迷惑だとか、苦情を直接言われることが増えました。

正直、この調子が続き過ぎて、もう母親の私自身が外出が億劫になっています。娘のような行動は、これからもずっと続くものなのか、すごい気になります。娘は、限りなくブラックに近い自閉症のグレー児だと言われています。(保護者)

Q30

息子がPDDです。診断を受けたばかりで、いろいろなことに取り組み始めたばかりです。10歳ということもあってゴネ方も激しく、気持ちに余裕が持てません。怒らずに対処できるようになるコツがありましたら教えてください。(保護者)

Q31

感情のコントロール力を育てるために、日常生活で気をつけたら良い点があれば教えてください。

ノースカロライナの自閉症協会の方が、カードを作りました。保護者、兄弟、家族、付き添いの人、教師などが、それを持って外出しています。そのカードには、こう書いてあります。

「私の息子は自閉症です」

「私の娘は自閉症です」

小さなカードです。裏面をご覧ください、と書いてあって、自閉症の特性が一目で分かるように裏面に書いてあるのです。ご理解ください、と。

そういうカードを昔はよく使ったそうです。言葉で一所懸命に頭を下げて説明するのではなく、そのカードをお渡しして理解して頂くのです。これはいい方法の一つだと思って持ち帰りました。今ではノースカロライナではもう殆ど使われていないそうです。いい教育とかいい療育がなされるようになったので、もう街に出てもパニックにならないのですね。

丁度30年前の1982年に初めてノースカロライナに訪問し、それから31回訪問してきました。短い時は一週間から10日、長い時は8週間ほど滞在しましたが、自閉症の人や子供がいろいろな所でパニックになっているということを見たり聞いたりしたことが無いのです。

私達の不適切な対応がこの人達がパニックを起しやすくしているということは事実なのです。パニックを止めさせようとしても、やまらぬのです。この子は何をすると気持ちが晴れるのか、何が好きなのか、喜ぶのか、そういうことをしっかり知っておいでにならないといけないのです。大好きなキャンディを食べることですか。大好きな音楽を聴くことですか。



大好きな年鑑・図鑑・絵本を見ることですか。大好きな玩具を手にする事ですか。と、見つけてあげなくてはなりません。

「やめさせよう」という発想は、何も成果を上げません。「こうしよう」に振り向けるには、その人にとって強い動機がある事を見つけなくてはなりません。「こうすればパニックをやめる」、ではなくて「何に強い動機を持っているか」。それを日々考えておいでになるといいのですよね。これしかありません。

**パニックになる習慣をお持ちになっているということは、日々その人を苦しめているということです。**

パニックというのは、無知・無理解の方がいらっしゃる環境に住んでいらっしゃることですよね。自閉症の方だけでなく、私達だって事と次第によってはパニックになることはあるのです。だけど、滅多なことではならない。「ああ、こんなことでパニックになってしまわれるんだ」と私達から見れば思われることで、自閉症の人はパニックになるわけですね。そういうことを、日常生活の中で折に触れて繰り返しているからパニックということがあるわけです。ご理解して下さい。

先ほどの吐くことも、みな同じことです。それを止めさせよう、消そう、という発想では消えないのだということを知っておいて頂いて、「こうした時にはこれに換えてあげればこの子は穏やかになる」、ということを見つけてあげて下さい。

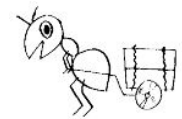
ノースカロライナでは、昔はご家庭でも学校でも、万が一この子がパニックになったらこの部屋に導いてあげようという部屋を造りました。そこにはその子が大好きな玩具とか絵本とかを置いてある、その生徒が大好きなキャラクターの絵やポスターが貼ってある、というような気持ちを静める部屋を用意して、そこに愛称を付けておいて、「そこへ行こう」と導いてあ

げる。すると、フッと気持ちが切り替わるのですね。

ところが、街中で起こった時にはそういう部屋に導くということが出来ませんね。そうしたら、何を与えてあげればその子が気持ちを転換することが出来るか。何かに振り向けてあげなくてははいけませんね。

言ってみれば、これらのご質問はみな同じことを繰り返していらっしゃるのですね。ボタンを押すので困っている、吐くので困っている、パニックを起こすので困っている、とおっしゃっていますね。みな同じことなのです。自閉症の人には、それをやめさせることよりも「何をすればいいのか」ということをいつも考えていて頂きたいのです。そうでないと、こういうことは無限に起きてきますね。

「こうすればいい」というアイデアを持っておられると良いですね。



## <ことばについて>

### Q32

8歳の女子です。うちの子は発語があったりなかったりをここ数年繰り返していましたが、睡眠障がい改善されてきてから言葉が出るようになってきました。同時に多動にもなってきたように思います。しかし言葉に関しては歌を丸暗記していたり、新聞を持ってきて、と頼むと違うものを持ってきます。復唱はできるのですが、自発語は少ないです。家よりディサービスの場のほうが言葉が出ているようです。今後発語を増やしていくためにはどのようなことが必要でしょうか。

### Q33

非定型自閉症(4歳2カ月)です。言葉が増え、理解力も伸びてきましたが、見聞きした絵本の文章DVDのセリフの反復が目立ちます。これは、成長とともに、消えて行くのでしょうか？ 遮ると怒ったりするわけではありませんが、場にそぐわないところで大声で言うてしまうことがあり、今後は気がなります。

例えば、私達が英語で歌を歌うことが出来る、仏語で歌を歌うことが出来る、とします。だからといって英語がしゃべることが出来る、仏語がしゃべることが出来る、とは言えないですね。皆様も、子供の頃に英語の歌の何曲かを歌ったことがおありだと思います。言ってみれば一種の丸暗記ですけれどね。でも、それとそこの国の言葉が分かるということとは何の関係も無いですね。

「発語は、復唱は出来ますが…」とおっしゃっていますね。それも、歌と同じですね。ところが意味にはなっていない。この時期のお子さんに、いきなり話し言葉をたくさん教えることがいいのかどうか、お考え頂くといいと思います。

一言でご説明するのは難しいのですけれども、「こちらが言っていることの意味が伝わりますか？」ということですね。復唱しているだけでは、意味が伝わっていないですよ。

「家よりディサービスの場の方が言葉が出ている」とおっしゃっていますが、多分ディサービスの職員が、言葉を選択して、分かる言葉だけを使っていらっしゃるのではと思います。伝わっているわけです。伝わる言葉を選んで使っているからですね。

この子が理解出来ない言葉を伝えていると、仮にしますと、丸暗記して同じことを発音すること、つまりオウム返しが出来ても、意味を持

つ言葉にはならないのです。

絵カードを使うのは、とてもいい方法ですね。絵カードに、短い名詞を書いてお渡しになると良いですね。動詞や助詞あれこれは使わずに、尾ひれを付けずに。

そうすると意味が伝わるでしょ？ その言葉と、意味とがピタッと一致するわけです。尾ひれを付けると話し言葉になっていいのでは、と思われるかもしれませんが、それは混乱するばかりなのです。ご質問のお子さんはそういう段階の年齢のお子さんだと思います。発語を増やす前の段階だと思います。

まずは幾つかのしっかりした発語を身に付ける。「ママ」、「ジュース」、としっかり言えるようになったら「ジュースちょうだい」と発展していきたいと思いますが、まずは日常生活の中で必要な「ごはん」とか「おやつ」といった名詞を、絵カードを使って意味のある言葉にして身に付けてもらうことですね。尾ひれが付けば付くほど、本人には分かり難くなって、定着し難くなります。「新聞持ってきて」と頼むと違うものを持ってくるというのは、「新聞」という言葉が理解出来ていないからですね。あるいは、『持ってきて』という意味不明の言葉が尾ひれになって付いてしまうと、分からなくなってしまふのでしょね。「新聞」とだけ言ってあげた方がはるかにいいかもしれませんね。ですからまず、必要な名詞を覚えていかれると良いですね。カードを見せて、「ジュース」と言ったらジュースをもらえとか、カードを見せて「おつかい」と言ったら買い物に行けるとか頭に描きますね。絵カードを使ってあげる段階ではないでしょうか。

自発語が少ないとおっしゃっているのは、まだ身に付いていないからですね。復唱が出来るのは、オウム返しが出来るということですね。

昔、あるアメリカの有名な歌手が来日してビックリなさった。



「自分の歌をこんなに上手に歌ってくれる歌手がいる」

ところが、「こんなに上手に英語で歌ってくれるのに、英語が全然しゃべれない」と言って、またビックリなさった。歌えるのとしゃべれるのとは全然別の次元なのですね。

最初の段階は、生活にしっかり結びついた「おふろ」とか「おしっこ」「ジュース」「うち」などの具体的な言葉をいくつか身に付けて頂くことが、それに尾ひれは付けなくて話してあげることがいいのではと思います。



#### Q34

高等部の重度の自閉症の生徒です。学校で「いけません」「何やってんだ」と大きな声で独り言を言っています。今まで言われてきたことを思い出して言っているようです。このようなオウム返しは消えていくのでしょうか？ 無くすためにはどのようにしたらよいのでしょうか？ (特別支援学校講師 25歳)

意味のある言葉を教えてあげると良いですね。

「いけません」

なんて、この子達には難しいですよ。

「ダメです」

「やめなさい」

「そんなことしてはいけません」

等々の言葉はみんな「いけません」という同じ意味を持っています。

「何やってんだ」なんて最悪です。

自閉症の人のことが分かる人は、「5W1Hの言葉は、よっぽど能力が高くなって来ないと分かりません」と言いますね。

What →何やってんだ？

Why →どうして？ なぜ？

When →いつ？

Where →どこで？

How →どのようにして？

など、こういう疑問符がついた言葉はこの子達には分かり辛いのです。

「何やってんだ」って、難しいでしょ？ 相当言葉が分かるようになった人でないと通じないですよ。こんな言葉ではなくて、もっと具体的な短い言葉を教えてあげて頂きたいと思います。

オウム返しは、意味のある言葉が出て来れば来るほど消えていきます。オウム返しは、意味の分かっていない言葉をたくさん言っているときによく出ることなのです。相手の言っていることをそっくりそのまま言っているように見えても、意味を持って言っているのではないのです。もう少し、日常生活の中で意味を持った易しい言葉を一つずつお教えになると良いです。そのとき、「意味を見せてあげる」と良いですよ。自閉症の人は視覚的にモノを理解することが得意ですから、意味を見せてあげて、見た者に対して短い言葉で言ってあげることですね。

だんだん言葉に意味があることを分かってくれば、オウム返しが消えていきます。オウム返しは言葉の能力があるということでは無く、発音の能力があるということに過ぎないのです。



#### Q35

特別支援学級に通っています。うちの学級では、まだ個別指導計画が整っていません。担任に言っても、分かったと言ったきりです。どうしたらよいのでしょうか？ (保護者)

これはお答えし難いですね。転校するしか無いのではないですか？（笑い） 担任に言っても分かってくれないわけですからね。

分かっていないのに分かったと言っはけませんね。



### Q36

**特別支援学級に通っていますが、自分の学校の中でも普通学級との交流がありません。小学校も中学校も支援学級は行事以外は交流が無い状態です。普通学級の生徒との関わりが無いまま同じ学校で勉強していくという現状をどのようにお考えでしょうか？**  
(保護者)

私は自分自身でも大変に安易な間違いやいろいろな事をしていたことがありますから、交流教育というか統合教育というか普通学級の中で学ぶことを、安易には申しません。

生徒さんの能力とかその時の特性とか、先生がどういう授業をどのようになさっているか、そういったことを総合的に考えないと、安易に統合教育をしたら成果が上がるということにはならないと思うのです。

私自身も、TEACCHに出会う前に統合保育、統合教育に非常に熱心に取り組んでいました。先生が上手に受け入れて下さっていれば、この子供達が普通学級の生徒達に交わって、その中で何か学んでいると普通学級の生徒達の良い影響を受けて、特別支援教育では身に付かない何がしかの発達がなされていくものだ、そういうことを漠然と思っていた時代があるのです。

これは、私自身が独断でそういう考えに走ったわけではなくて、30年以上40年近く前の時代では、「我が子が幼稚園に入れてもらえた」「我が子が保育園に入れてもらえた」、そうい

うことを保護者の方が大変喜ばれたのです。学校に入る前の子どもに対して、通所・通園する所が何も無かった時代です。お母さんの喜びの気持ちが、微妙にお子さんに伝わるのでしょうね。お子さんが良くなっていく、とはっきりおっしゃいました。

当時、私は東京大学の精神科の外来診療で、来る日も来る日もお母さんと幼いお子さん達とお会いしていました。そして、「幼稚園・保育園に入る、そういうことによって我が子がいい変化をしてきた」、とお母さんがおっしゃるのです。私は外来でちょっと拝見するだけで、お母さんのおっしゃることを信じるしかないです。それで、私達も運動したり、学校へ行ってお願いしたりするようになって、一部の方に統合教育がされるようになっていきました。お母さんが、良い影響をみんなから受けているように思えるとおっしゃった。それを信じた。当時は特殊学級に行っている子供でも、養護学校に行っている子供でも、本当の意味での優れた特別支援教育を受けているとは思えなかった時代でした。だから、そういう中で、幼稚園・保育園・普通学級に入られた時のお母さんの喜びの大きさが私達に伝わってきて、それが、不用意にも子供の教育に成果を上げていると私は思ってしまったのです。統合教育がとても大切だと思うようなことを、私もお母さんたちと一緒に社会に向けて折に触れてアピールしてきました。そして当時の安田生命社会事業団が特別事業をして社会にいいものを残したいとおっしゃって、ご相談下さったのです。「それでは、統合教育をしている映画を作って下さい」、とお願いしましたら16ミリの映画を作って下さったのです。

埼玉県の深谷にありますさくらんぼ保育園、府中第三小学校。統合保育・統合教育を非常に熱心に意欲的に取り組んで下さいました。そこで子供たちが変化していく、その変化が私達に

は最善と思って努力したのです。そうしてその子たちはもう30代40代になっていらっしゃると思いますが、私はとっても辛く寂しい悲しい思いです。

統合教育は、本当はいい成果を上げてはいなかったのです。もう10年もしないうちに、「漫然とした統合教育」では成果を上げない、と思いました。この子達に混乱を引き起こすばかりでした。しばしば、「みんなの中にいることが苦痛です」、「混乱です」、「辛いです」、「嫌です」、ということが見えてきた。保護者の方が一所懸命にお連れになると、保育園でも幼稚園でも学校でも、子供たちは行くのです。保育園・幼稚園・小学校に行かなかったらこの子達はどうか、ということを実証するすべを持たなかったので、分からないわけです。学齢前の子どもが通えるところは皆無だった時代です。だからそういう所へ通えただけで非常に喜んでいらっしゃる。その喜びを拝見して、私も後押しをするようにして、映画を作って頂いて、その映画の場面の中で映し出されるものが発達だと思っていたのです。

小さな時にはそれでもまあまあいいです。最初のうちは教室を走り回っていた子が椅子に座るようになりました。これを発達だと思っていました。ちゃんと着席するようになった。授業の三分の一くらいは座っていられるようになった。休み時間にブランコに乗っているとき、その周りに生徒が寄り添ってくれている。寄り添ってくれている生徒に特に関心を持っているわけでは、本当は無いのだけれど、みんなの中に居るといふそのことが発達に見えた時代があったのです。30年以上も前の話です。

でも、実際にはこの子達には何も身に付いていないということが、数年するうちに分かってきます。身に付かないまま青年になっていく。結局、ご家族は後でご苦労をうんと背負われることになるわけです。悲しいです。そういうと

っても不幸な経験を、かつてしたのです。

「普通学級の中に入れると、子供は皆からいい影響をうけていい発達をするのだ」、と安易に単純にはお考えにならないで下さい。普通学級の中で、何をどういうふうに教育されるか、教えられるかということをしつかりお考えになって下さい。

単純に、私は普通学級がいいとか悪いとか、どちらも申し上げません。大切にされて、皆から邪魔にされない。先生も意欲を持って受け入れて下さっている。これだけで発達していくなんてことは無いですよ。そして、授業中に混乱していることが割合多いのですよ。だけど、ちゃんとすわっているということが習慣づいてくると、それが発達だと思ってしまうのです。そんなもの、後になって冷静に考えてみたら発達でも何でもなかったのです。

フィルムの編集に携わる中で、たくさんの場面をよーく吟味し考えてみて、この中にこの子の発達の要素が何が見て取れるかと考えたりしました。みんなの後を付いてあっち行っているこっち行っている、運動会の中で何となくみんなと手をつないでいられる。こんなものは本当の発達とは殆ど言えないものです。大きくなったときに分かります。

本当の意味の個別的配慮で、しっかり教えられてはいなかったのです。

いつも特殊教育を一对一で教えられなくてはいけないと申し上げているのではないのです。何をどのようにこの子は今学んでいるか、教えられているか、それをちゃんと考えないで、ただ「みんなの中で一緒に居ることが、いい発達になっていく」というような安易な幻想をお持ちにならないで下さい。

私自身一所懸命になって数年間取り組んで、そして数年経って疑問に感じるようになり、10年も経たないうちにとっても深い大きな絶望に陥りました。統合教育が良いなんてことを、

運動家や思想家は別の意味で強調しましたよ。私はそれとは違った意味で、いい教育成果が上がる、良いお手本があって仲間の影響を受けた、というふうなことを安易に誇張して考え過ぎていました。実際はそうではなかったのですね。

こういうことをお父さんお母さんとゆっくりお話し合いをしました。こんなことを、良いと思って一所懸命努力して、お母さんお父さんを励ましてしまって、本当に申し訳なかったと思うのです。

だけど保護者の方々も優しい方です。「いいえ、いいのですよ。私達が希望したことを先生が後押しして下さったのだから。先生が普通学級に入れた方がいいとおっしゃったからそうしたのはいいのではないのです。親として入れたかったから、それを先生が応援して下さっただけです」ところおっしゃって下さった。

良い成果は簡単に上がりません。その子にとって混乱や苦痛が無く、何をどのように具体的に教育が出来るか、ということをしっかりお考え下さい。

私は、この30年はもう統合教育を安易には申し上げません。



### Q37

特別支援学級には〇〇方式など地域独特の指導法が残っています。例えば練馬方式は作業と運動をととても重んじていて国語・算数などの教科学習はほとんど行いません。長時間の運動や作業に耐える心と体を作ることが目標になっています。それが合う生徒はいいのですが、毎日やっとなり付いて行っている生徒は気の毒に思います。学校独自の指導をどのようにお考えでしょうか？

(保護者)

### Q38

中学校にも高校にも不適應を起こし登校出来ない生徒がいます。ほとんどが発達障がいを抱えている知的に高い生徒です。入学初日から学校に来ない場合もあれば修学旅行や卒業式だけ来る生徒もいます。家にいても特に困った様子はありません。担任からの電話や訪問もやっとなり受け入れているという状態です。どのように対処したらよいでしょうか？ (同様質問3)

地域や学校の教育理念、つまり方法論を優先しているところには、自閉症の人は合わないと思います。自閉症の人への教育は、自閉症の人に合わせた教育がなされるということが、本当に大切なことだ、と思います。作業と運動を重んじて体力がしっかりしてくれば、自閉症の子供の未来は開けますか？ そんなことはありません。まだまだ日本の特別支援教育は未成熟だと思います。作業と体力と運動、これはしないよりはした方がいいですよ。しかも本人が苦痛でなく、出来ることなら楽しくするならいいですよ。

自閉症の人に対しては、本人が苦痛になっている事まで含めて毎日して、それが大きな教育効果に結び付く、などということは絶対にありません。人を嫌いになるだけです。社会を嫌いになるだけです。あの先生の所に行くのが嬉しい・楽しいと生徒が感じない教育なら、どんなに先生が一生懸命になさっていても、結局うまくいきません。本質的なところは、対人関係・人間関係ですよ。

自分がしたり言ったり応援したり支援してきたことが、どれだけ正しいか正しくないかということは、その人が青年になり大人になってどのような生活をどのようにしていくかということによって決まるわけですね。

ご質問のような特別支援教育をしておられ

る先生が教育して送り出した生徒さん達が、25歳や30歳になって、今どのような生き方を日々していっているか、そのことをしっかり確認することなしに、あの方法が良いかどうかという判断は絶対しないで頂きたい。

TEACCHに出会って、感動し驚きました。「根拠がはっきり、そして成果がはっきりしていることを方法に用いて教育をします」、と言うのです。「たぶんこうであろう、ということを経験を得ないとしたら、本当にそうだったかどうかを確認するまでは、自分がしたことが正しいか正しくないかといつも疑問に思いながら努力をしている」、と言うのです。たいした人達だなあと思いました。

彼らはよく言っていました。

「今自分がしていることが、この生徒の将来に、本当にどれだけ有益なのか、それがはっきり確認出来る方法でしている時はそれはそれでいい。そうでない時には、まだそうではないのだと、本当にそうかどうかということを経験のどこかで疑問に思いながら、そして心配しながら、教育をするのです」

これが最善だと思ってこのご質問にある先生たちはしているのですが、この学校を卒業した生徒達が、どういう思春期・成年期をいま迎えているかをしかり調査することが、とても重要なことだと思います。

東京大学にいたときに、精神科の台（うてな）教授のという人に教えを受けました。医者としての生き方を、特に教えて頂きました。内科学その他の身体医学の領域では、患者さんが亡くなったならご遺族にお願いをして可能な限り解剖をさせて頂くのですが、病理解剖することなしには、自分がしてきた事がどれだけ正しかったか、どこに間違いがあったか不足があったか、本当はしっかり分からないのです。解剖してみれば分かるのです。

だから内科医にしても身体医学の医者にしても、おっしゃいます。

「病理学者に解剖をしてもらうときに付き添いますが、あの時は震えるほど怖いです」

と。

「患者さんが、これこれこういうことで入院してこられました」「こんな検査をしました」「あぁしました」「こういう結果が出ました」「こうだと思った」「だからこういう治療をしました」「経過はこうであめで」「あっ、と思ったからどう修正しました」「そして最善を尽くしました」「けれども、結果としてお亡くなりになりました」「いま、体の中ではこのような病変になっていると思います」

こう言って病理学者に渡すわけです。病理学者は目の前で解剖してくれるわけです。どれだけ正しいか、どれだけ間違っていたかが、明らかにされるわけです。辛いですよ。

その経験が、医者としての能力をしっかりと身に付けさせていくわけですね。

精神医学の領域では、患者さんが亡くなるということは、滅多にありません。多くの方は天寿を全うされます。自分がしてきたことが、どういうことで正しかったか間違っていたかを確認するためには、結局フォローアップしていくしかありません。特に、自分の手を離れた患者さん達がその後どのように日々生きていけるか、5年10年20年30年、追跡していく。でも、一軒々々回っていく、お手紙を出すということは出来ません。だから台先生はどうされたかということ、こうおっしゃいました。

「年賀状を出します。出来れば暑中見舞いも出したいけれど年賀状しか出来きれていない」

いい方法だと思います。

「退院して病院と縁が切れて、5年経ち10年経ち20年経ち、今どうしていっているか、こちらから年賀状をお出しすれば必ずと言っていいくらいお返事を頂く、それどころか相手の

方から年賀状を下さるようになる。他の消息のお手紙も下さるようになる。それによって自分が思った通りの人生を歩んでいらっしやるかどうか、自分で確認が出来るし理解出来るでしょう？」

私もわりあい忠実に実行しております。全部が患者さんとは限りませんが、千何百通年賀状を書きます。いろいろ教えて下さいます。「今こうしています」とか、「元気でこうして働いています」、と。嬉しいですよ。「病院で生活せざるを得なくなりました」、というお手紙を頂くこともあり、辛いです。でも、そうやって、私達は鍛えられるでしょう？」

何を申し上げたいかと言うと、自分たちの学校がこういう教育理念でこういう教育をしていますよと言う学校の先生が、作業と運動とこうでああでとどの生徒にも一律にそのように教育していることによって、生徒の皆さんがどういう成果を担って卒業して、その後生活していけるかということをしっかり確認すること無しに、教育理念なんかお作りになってはいけません、ということです。私は、そうはっきり思います。そういうことをしっかり確認して、私はこういう教育が良いのだと思っておられるのなら大いに結構です。そうでなかったら駄目だと思いますね。

先生にこうお尋ねになってみると良いですよ。

「これまで手掛けてこられた生徒さんで、今、こういうふうにならぬに立派に生活をしていらっしやるという人がいらしたら、3人でも5人でも教えて頂けませんか」「出来ることならその方を訪問してみたい」

そう言われて、自信をもって教え子を紹介して下さいませんか。

それをお聞きになってから学校を選ばれてはどうでしょうか。

我が国では特別支援教育の歴史があります。

もうそういうことを考えてもいい時代でしょ？ アジアではトップレベルにあるのですからね。漫然と、成果が上がらないことをしているとしたら、悲しいと思いませんか？

毎日やっとならぬに付いていつているという生徒さんには、その学校に行けば行くほど良くないことですよ。「気の毒だ」とこの方はおっしゃっているではありませんか。そんな学校にどうして行くのですか。鍛えられたことが必ず成果になって戻ってくると思っていられっしやるのですか。毎日傷つきに行っているようなものでしょ？ そんな不幸なことは悲しいことです。

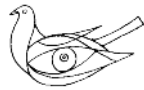
日本には今、政府の公式見解でさえ、70万人から80万人の引きこもりの人がいらっしやるのです。実際にはそんなに少なくはないのです。予備軍の人が155万人いると言われていますが、それもそんなに少なくはないのです。膨大な数です。その人達の大半が発達障害であるかは調査されていませんので分かりませんが、何故引きこもるのでしょうか、青年なり大人になった時に。引きこもっていらっしやる方ご本人の不幸な面、ご家族の大変さ不幸さ、このことに対して教育者は責任を持てますか？と私は思います。何を教育してきたのですか？と。

そういうことを考えながら、「学校独自の指導」ということを、皆様ご判断ください。生徒一人ひとりに合わせてあげて下さい。何人かの生徒と一緒に教えていらしても、一人ひとりへの配慮はして下さい。みんな一斉の作業と運動を一生懸命繰り返していると、それが合う生徒も中にはいるでしょう。でも、合わない生徒は、どんな不幸なことになるでしょう。

発達障がいの子供達が、毎日学校に通う時に苦痛を感じながら通っているということならば、マイナスの方がプラスよりも遙かに大きいということを知ってあげて下さい。ホイホイ甘やかして好き放題にして下さいと言ってい



るのではないのですよ。喜んで楽しく毎日学校へ通える、毎日が学校へ行くのが楽しい、いろいろな課題や活動を教えてもらえるのが楽しい、先生に会うのが楽しい、こういうことを生徒が相当のレベルで感じていないのなら、学校に行く意味が無いと思います。



## <TEACCHに関して>

司会者：時間が予定より遙かに超過してしまいました。保育をしている子ども達も、疲れているのではないかと思います。最後に TEACCH についてお聞きしたいと思います。

例えば、「教育というのは型から入る。柔道や剣道に型があるように、教育も型から入るものだ。TEACCH が言う構造化もそういうものだ」、という誤解が、専門家と言われる方の中にもあるのではと思いますが。

自閉症の人は、物事を視覚的に学んでいく力が強いのです。聴覚的に学ぶことはずーっと下手なのです。見えないものに意味を見出す力が弱いのです。想像力を働かせることが苦手なのです。ですから、視覚的に情報を与えていくことが大切です。

一昨年、ある京都大学に入学したばかりの学生さんからお手紙を頂きました。

「高等学校の時に、うんと苦勞しました。そして京都大学に入って、ゼミナールの担任の先生に打ち明けたら、それじゃあ君ね、この人の所

に行ってごらん、と先生の友人の精神科の医者を紹介されました。そこに行ったら、君はアスペルガーだと言われました」

「とっても嬉しかったです。なぜ嬉しかったかと言うと、自分のことが分かったからです」

「もっと早くからアスペルガーということを知って教えてもらいたかった」

「自分はどのような個性・特性を持っているかということを知りませんでした。高校時代にいろいろな苦勞をしたのは、自分の努力が足りないからだと思っていた。でも、そうではなかったのです。アスペルガーだと言われてホッとしました。自分はそういう体質・素質を持って生まれてきて、出来ることはどのように出来、出来ないことはどのように出来ないのか、ということが分かったのです」

「アスペルガーという事をもっと知りたいので、本を見つけようと思った。本屋さんに行ったら佐々木さんの本が最初に目に付いた。それでそれを買いました」

この辺もアスペルガーの人、独特ですよ。普通はね、何冊か手に取って見て、一番自分に合っているものを買うのですが、最初に目に付いた本を買ったというのは、よく言われるシングルフォーカスという、独特のことです。

「本を読んでみて分かりました」

「視覚的な世界に強い、話し言葉を聞くより文字が強い、絵が強い、などと私のことばかり書いておられる」

「授業中に先生の話聞きとっていきのがとっても苦勞だった。講義を聞きながら、聞いたことをノートに取るということは出来なかった」

同時総合機能が弱いのですね。

「学校の中の試験はいつも中くらいの成績がやっとでした。先生から良く叱られました。お前はちゃんと講義を聞いて、ノートを取るといってしていないじゃないか、と。でも、そ

れが出来ないので、とうまく説明出来なかった」

「周りの仲間たちが、どうして講義を聞きながらノートを取ることが出来るのかが、不思議でした。仕方がないので、自分は教科書や参考書をいっぱい読んだのです」

ここがアスペルガーの人の特徴ですね。文字ですから強いのです。視覚的な世界です。

「読んだ事をしっかり覚えていく力は、クラスの中でみんなより私の方が強いと思った。何故かと言うと、友達は、折角本で読んだのに試験の時に思い出せずに書けなかったとか、数学の公式を思い出せなかった、と言う。私なら見たら忘れないのに、それが不思議だった。自分はそういうことは強い。学外の試験だと、とっても強かった。全国の試験となると、いつも上位10%以内に必ず入った。それは、自分の学校では断トツ一番だった。でも、それで、お前は学校の勉強を馬鹿にしている、と学校の先生から叱られる羽目になった」

馬鹿にしているのではなくて、読んで学んだことがしっかり身に付く、聞いて学んだことが身に付きにくい、これは発達障がいの人にかなり共通していることなのです。

「それを先生は分かってくれなかったし、自分も分からなかった。努力が足りないから、と思っていた」

目で見て学ぶ力が強いわけです。TEACCHはそのことをよく知っているわけです。発達障がいの方は視覚的情報に強い。だから、この子、この生徒一人ひとりがきちんと学びやすい環境を作る。そうするために視覚的な構造化に努力しています。

視覚的構造化という言葉は、英国の教育事情に詳しいある専門家がそう訳しておられたので私も先人に倣いました。京都大学のある方は、視覚的構成化とおっしゃっています。

本当に自閉症の人のことを分かっている、

TEACCH のことが分かっている人は、視覚的構造化という言葉の正しく使えますけれども、生かじりの人は、視覚的な物理的な枠にはめ込んで教育することだと思っているのです。TEACCH は、絶対に生徒を枠にはめ込みません。こちらがあらかじめ持っている視覚的な物理的な枠の中に、生徒を押し込むようにしてはめ込んで教育するなどと言うことは絶対にしないのです。

一人ひとりの生徒に合わせて、この子に環境をどのように構成してあげるか、視覚的な、物理的に必要な何をどうしてあげればよいか、と言う事を TEACCH は考えるのです。

こちらがこの子に合わせて視覚的場面を作るということは致します。教室の造りなど、一人ひとりに合わせて異なった造りを工夫します。気が散る生徒には、衝立をちょっと立ててあげる。習熟した課題の時はそれはもう要らない。初めて新たな事を学ぶ時には衝立がある方がずっと学びやすいと分かればそうしてあげる。このようにいろいろなことをします。そして、話し言葉を使い過ぎない。生徒を混乱させない程度に、ちゃんと話し言葉を使う。話し言葉を用いながら、同時に、目で見て学ぶことが出来て、生徒が受け入れることが出来る程度に視覚的な教材を工夫して使っていくのです。

TEACCH の基本的なところを一つ申します。こちらが予め用意している視覚的物理的な枠の中に生徒を入れ込むことが視覚的構造化だと思っている方がいらっしゃったら、これは大変な間違いです。生徒に合わせて教育環境を作ってあげる、教室の環境を一人ずつに合わせて作る、生徒に合わせて一人ずつに教材を作ってあげる、そういうふうにするのです。そのところを、お間違いにならないようになさって下さい。大きな違いです。

英国のローナ・ウィングさんはおっしゃいま

す。

「自閉症の人は漫然と私達の世界や文化の中に入って来いと言われても入って来られないのです。私達のほうから、自閉症の人達の世界や文化の中に入っていき努力をするのが先ですよ。自閉症の人達の世界や文化の中にちゃんと入れた人だけが、このあとに私達の文化や世界の中へ、一人ずつ手を取って導いてくるのです。そのようにして私達と共存していくのです」

「何があっても、私達の言うことを分かりなさい、私達の世界に入って来なさい、とするのではありません。私達のほうから自閉症の人の世界や文化の中に入っていきのが先ず前提条件です。ちゃんと入れた人だけが、私達の世界に入って来なさい、言ってみれば私達のことを理解して下さい、と言うことが出来るのです。まず入って行く、入った後でこちらの世界に導いてくる、この方法を具体的に教えてくれたのが TEACCH なのです」

生徒たちが生き生きしてますよ、ノースカロライナでは。生徒たちを見て下さい。教室を見せて貰って来て下さい。グループホームを、職場を見せて貰って来て下さい。職場だって、働き易いように必ずソーシャルワーカーが訪問して、「ここをこういうふうにして下さい」「この仕事ははずして、こちらをより多くして下さい」と、職場に自閉症の人を合わせさせるのではなくて職場を自閉症の人に合わせて改造してもらおうのですよ。これを、枠をはめ込むとは言わないですね。



司会者：先生、ありがとうございました。ご質問がまだたくさん残っています。今後どうするかを佐々木先生とご相談して、また皆様にご連

絡差し上げたいと思います。

先生に、私達らしいプレゼントをご用意させて頂きました。練馬特別支援学校1年生の生徒さんが作った刺繍を。それから、社会福祉法人正夢の会コラボ多摩ワークセンターつくしの利用者さんが作った手作りの葉書です。それから、石神井特別支援学校の作業学習で作りましたコーヒー豆の袋から作った手提げ袋です。次は、社会福祉法人未来のぞみ作業所に勤める、絵と調理が大好きな青年、矢野英志郎さんが描いたカットシールです。そして石神井特別支援学校の中学部の生徒さんがミシンで作った布巾です。最後にあきる野学園高等部の重度グループの生徒さんが作ったメモ帳です。(大きな拍手)

今日は本当に長い時間、ありがとうございました。



以下の質問についての佐々木先生からのお答えは、時間の都合でお聞き出来ませんでした。

## <告知について>

Q39

小学校の普通学級で、自閉症児への取り組みがうまくいっている事例がありましたら教えて下さい。

Q40

小学校4年生男子の母親です。本人に告知するときはいつ頃どのように伝えればよいでしょうか？療育に通っているので本人はうすうす気付いていると思います。（保護者）

Q41

息子は普通高校3年生です。コミュニケーションなど苦手なところもありますが、前向きに就職を考えています。今後、社会の障がい者雇用支援を利用した方がよい場面もあるかもしれませんが、その場合、本人への告知と本人の受容が不可欠です。告知のタイミングと方法についてアドバイスを頂ければと思います。（保護者）

Q42

障がいの告知は誰がいつ行うのでしょうか？主治医の他、親や教師でもよいのでしょうか？（普通高校教員 50代）

Q43

中学校1年生、女子の母親です。つい最近自閉症（軽度）と診断されましたが、本人が受け入れられなく、人前では隠す努力をしています。（通級と適応指導教室に通っています。）

担任の先生は、表面的には理解を示してくれていますが、実際には学校ではない居場所を見つけた方がよいなどと発言しています。

10年20年先の心配をする担任と、今を一生懸命生きている私達親子とで、意見が合わず困っています。メンタルクリニックや教育相談は利用していますが、学校の主任、副校長、校長へは相談していません。

## <育て方について>

Q44

今春小学2年生になる広汎性発達障がいの男子です。普通学級に在籍し週1日特別支援学級に通級しています。なかなか気持ちの切り替えができず困っています。

具体的には朝。起床→朝食→着替え→登校準備→出発。それぞれの場面で次の行動に移ることが出来ません。たいてい好きな本を読んでいるかおもちゃで遊んでいて、それを止めることが出来ません。時間を決めたり、本ならページを決めたり、タイムタイマー等を使って時間を知らせていますが、約束をしてもそのときがくると知らん振り、声かけしても返事をしなかったり、怒りだしたりします。これが毎朝続きます。

スケジュールを書いて壁に貼る等もひどく嫌がります。やらなければいけないことが分かっている中でわざわざ嫌なことを見なくてはいけないからです。

「そういうのがいちばんムカつく。そんなことをしたらビリビリに破く」と言っています。

毎日ケンカになってしまうことについてはよくないと思っているので、「もうこちらからは何も言わないことにする。」と言うとそれも嫌がり、「声をかけてほしい」と言います。でも、声を掛ければ怒るのでほとんど困っています。

初めはできるだけ穏やかに接していますが、こちら出勤時間が迫ってくるとだんだん厳しい口調になり、息子も逆切れするという悪循環に陥ってい

る状態です。

最近はことばも随分乱暴になってきて、本心では無いこともよく分かっているけどあまりひどいことを言うのでこちらもついカッとなってしまいます。

学校は保育園の時と違って、すべてのことに『やらされている』感を感じているようです。入学当時学校に行きたくない理由を、「学校の先生は、あれやれ、これやれしか言わない」と言っていました。休み時間があることで、登校しているのだそうです。いつも自分のやりたい楽しいことで頭がいっぱいなので勉強が苦痛らしいです。中には好きな勉強もあるし、やってみたら楽しかったということもたくさんありますが、やっぱり学校は嫌いだそうです。

本当に学校に行きたくないときは、出勤を遅らせても本人の不安が無くなり、納得するような手だてをとってから学校に送り届け、担任と話しをしてから出勤するようにしています。いろいろありながらも毎日ちゃんと登校しているので、『えらいなあ』とは思っているし、本人の頑張りもよく理解しているつもりです。これまでの保育園での生活や人との関わり、通級での学習も確実に積み重なってはきています。本人なりにいろいろな成長は見せているので、学校の活動が本人の発達段階には合っていないのかもしれないと思ったりもします。

学校をやめるわけにはいかないのだから、これからなんとか折り合いをつけながらやっていくしかないのでしょうか？ いろいろな面で他のお子さんとの差はどんどん広がっていくことは想像できますし、今はまだ低学年なのである程度集団から外れていてもなんとかなっていますが、これからは友達関係も難しくなっていくと思います。友達と比べるようなことはせず、これからも本人のかんばりを認めてしっかりと応援していきたいとは思っていますが…。心配はつきません。

(特別支援学校教員・保護者)

Q45

発達障がいがあり、登校渋りをする子どもにど

んな対応をすることが望ましいでしょうか。特に学校での環境調整をお願いするに当たって大事なことはなんでしょうか。

Q46

小学校の通常学級にいる自閉症児の、適応していった事例を教えてください。(支援者)

Q47

子どものよい部分をどのように伸ばすのかをお聞きしたいです。特に、教育の中で伸ばすために、親として周囲とどのように連携すべきかに関心があります。

Q48

3歳1カ月の息子の母親です。2歳のころにADHDの診断を受け、自閉症(広汎性発達障がい)の傾向もあるということです。現在週一ペースで療育に通っていますが、嫌がってやりたがらないメニューがあります。それはみんなで手をつないで輪になって歩く、いすに座って手遊び、子どもの体をパンに見立てて親がこねる(くすぐる)などなのですが。療育の先生方は基本的に子どもが嫌がっていても、なんとかやらせようとしてくれるのですが、それは本人にとってプラスになっているのでしょうか。

息子は療育に行くことを「怖い」と言いますが、泣いて拒否するほどではありません。が、療育中は必ずと言ってよいほど部屋から出たがり、帰りたがります。お絵かきや名前を呼ばれて返事するなどには好んでやりたがります。お気に入りのおもちゃは独り占めして、お友達にも絶対貸せません。それが原因のこともあるし、小さい子供を押したり、手が出たりで、トラブルが良くあります。親が諭しても、今のところ効果はありません。どのように対処すればよいのでしょうか。

可能な限り子どもの要望に応じてあげたいと思っています。叱っても効果はありませんし、むしろ



その弊害が出て状況は酷くなるばかりですから。穏やかに、何度も、時間をかけて。分かっています。ですが、それでも八方ふさがりに陥ってしまい、自分で自分を制御できない時があります。声をあげて泣いてしまったり、物に当たってしまったり、そしてひどい自己嫌悪に陥る。この負の連鎖を断ち切るにはどうしたらよいですか。 (保護者)

#### Q49

私は療育センターで発達につまずきがあるお子さんの療育支援をさせて頂いています。対象児童は、就学前のお子さんです。

日々子ども達の支援をしながら考えさせられることは、お子さんに対して最適な支援をしていくのが私たちの役割ですが、療育というものに対して職員の中でも様々な考え方があるということです。

療育センターでは、子ども達の問題行動に対して、社会に出たら迷惑をかける行動だから抑制していかなければと必死になる職員もいれば、もっとおおらかに子どもの発達を見て行くべきだと考える職員もいます。子ども達のいいところを尊重し伸ばしていく、という考え方は療育の根本であるべきだと思いますが、社会に出たらマイナスな行動とみなされてしまう子どもたちの動きに対して幼少期から止めさせていく考えを持った方がいいのか、子どもの発達の中でその行動が一生続くものではないと考え見守っていくのがいいのか考えさせられます。

幼少期の子ども達の問題行動に対して大人はどのような視点でどうかかわっていくのが良いかヒントを頂けたらと思います。

子どもたちが安心して過ごせるように環境を整えることも大切だと思っていますが、環境をどう整えるかも日々、試行錯誤です。何かよりよい環境設定づくりへのポイントがありましたら、教えて頂きたいです。 (支援者)

#### Q50

特別支援学校小学部に通う自閉症の男子です。私は穏やかに息子を育てたいのですが、父親が、当たり前が悪いことは悪いと厳しく育てたいという方針を持っています。ルールに反したことをすると叩くこともあります。息子は怖がっています。夫婦の中で育て方について考え方がまったく違い、困っています。 (保護者 45歳)

#### Q51

特別支援学校の高等部重度重複学級に通っている自閉症の男子です。言葉はほとんどありません。家でも学校でも思い通りにならないと叫んだり嘔んだりします。保護者と相談し、これは障がいの特性ではなくわがままであると言う考えで一致しました。きびしく指導したところ、朝は自分から雑巾掛けをするなど行動が変わってきました。わがままと特性をどのへんで見分けるのか教えてください。 (特別支援学校教員 40代)

#### Q52

広汎性発達障がいと診断された高等部の生徒です。小学校、中学校と普通学級で過ごしました。小学校の頃から弱いものいじめや授業妨害などを繰り返しています。家庭でもひとりにしておけない状態です。注意すると切れて出て行ったり屁理屈を言ったりします。障がいが無くても、もともと性格の悪い子だったのではないかと思います。生まれつき悪い性格をもった子というのはいるのでしょうか？ (保護者)

#### Q53

特別支援学校高等部1年在籍の広汎性発達障がい児の母親です。父親は単身赴任で、週に一回帰ってきます。息子は、家ではテレビや電話を壊しては「新しいものを買え」と言います。買い物自体が好きようです。夜遅く食べたいものがあるから車を運転してくれと言ったりします。「もう遅い

から」とか「お金が無いからだめだ」と断ると暴れて物を壊します。父親は「私の対応が悪いからだ」と責めます。最近では父親がいるときでも暴れるようになり父親も抑えることができません。学校では穏やかに過ごしています。最近は、『死んでしまえばいい』とか、『学校から帰ってこなければいい』と思うようになりました。

主治医は施設などに入れてそこから学校に通うようにして、物理的に離れることを勧めています。どうしたらよいのでしょうか？

Q54

特別支援学校高等部1年生の男子です。普通中学を出て専門学校に進学したのですが、友達から何万円もお金を借りて返さないという問題が発覚し、退学しました。中学の時、勉強には付いていくことは出来ませんでした。

高等部に進学するにあたって初めて広汎性発達障がいと医師から診断されました。支援学校でも授業妨害をしたり友達に「おごってくれ」と飲み物や欲しい品物をせびっているようです。人のことは責めるのですが、自分も同じようなことをしている事に気づきません。注意するとすぐに切れてしまいます。特にお金に関しての執着がひどく、お小遣いをあげても一日で使ってしまうので、その都度あげるようにしています。どうしたらよいのでしょうか？ (保護者)

Q55

自閉症の人が2割ほど通う成人の授産施設で療育を行っています。市内でも最も重度の障がいの方が通っている施設です。自閉症の方は全知的障がいがあり、有意味語がありません。自閉症の方は重い知的障がいの方々に比べて自立度が比較的高いため、放置されてしまいがちです。施設は構造化されていないうえに、コミュニケーション手段として絵カードさえ使わずにいます。構造化をすれば、彼らの潜在的なADLやQOLが高ま

ると思うのですが、職員が無知なため旧態依然とした支援が行われています。

このような施設では、まず具体的に何から始めればよいのでしょうか。ほとんどの方に自傷があります。(施設職員)

Q56

STを取得してはいるが、自閉症者との関わりが今まで少なく、また支援者の中には彼らとの触れ合いを苦手に思っている人がいます。(何かを起因にパニックになるのを恐れているのかもしれませんが)

ぜひとも自閉症に不慣れな者、関わりの少ない者でも、一時の時間で彼らとのコミュニケーションを取るきっかけを作るコツを教えてください。(栄養士・言語聴覚士)

Q57

中一男子ASの子を持つ、自身もASの主婦です。自分も2次障がいで重度の鬱をもち、ACのため、実家とも絶縁中。夫婦仲も悪いので、一人で男の子2人を抱えて育てています。苦しくて苦しくて、子どもに対する罪悪感でもいっぱい、毎日辛いです。(保護者)

Q58

人との関わりが好きな20代男性利用者の方が、職員のほっぺを触ってきたり、逆にコチョコチョ遊びをして欲しがります。将来を考えるとそうしたスキンシップは減らしていった方が良いのかと考えていますが、いかがでしょうか。

(施設職員 40代)

Q59

自閉症の子どもに限らず、子どもへの分かり易い指示と分かり難い指示との分岐点はどのあたりにあるのでしょうか。

それを母親が自覚出来るポイントがあったらお話し頂きたいと思います。母親の、子どもへの視

点が変わるだけで、子育ての大変さは軽減できる  
と思いますので。（自閉症スペクトラム支援士）

Q60

自閉症者のレクリエーションや余暇の提供の仕  
方、または考え方について教えて頂けるとありが  
たいです。（作業所職員）

Q61

家庭で、幼少期からしておくべき支援は何でしょ  
うか？（保護者）

Q62

子どもが高校生になるにあたって、社会に近く  
なり具体的にどのようなにしていけばよいのか分か  
りません。教えて下さい。（特別支援学校教員）

Q63

青年期、老年期に向かっていくにあたり、家族  
や本人、そして周囲の人達はどのようなことを心  
得ていけばよいのでしょうか？（保護者）

Q64

発達障がい児の子育てで、一番大事なことはど  
のようなことだとお考えですか。

Q65

障がい児を育てていく家族に対する支援者、私  
たち。今までの支援と、これからの支援が変わっ  
ていく節目に来ているように感じます。先生はど  
のように支援(関わり)をされているか教えて下さい。  
（支援者）

Q66

一般に中学校以降の教育では職場体験や講話  
を聞くと言う時間があると思います。普通学校に在  
籍している当事者を対象に、「障がいをオープンに  
して働くことの必要性や意義」を伝えることが必要  
だと思いますが、どう思われますか？

私のような当事者がお話しするのは簡単ですが、  
佐々木先生のようなご専門の方とコラボしてその  
ような機会を作って実現させたいと思っています。  
その場合は私も協力させていただきます。当事者が社  
会にスムーズに進める仕組みが出来ることを願っ  
てやみません。（本人）

## <TEACCH に関して>

Q67

幼児期～学童期で誤学習による不適切な問題  
行動は、思春期以降に身体が大きくなり、力が強  
くなるにつれ、家庭内での暴力や荒れた行動にな  
ってしまうケースが多々見られます。

学校で TEACCH モデルによる支援を行うことで、  
穏やかに落ち着いて過ごせるようになりますが、  
家庭での問題はなかなか変化せず、難しい場合  
があります。このような場合、投薬等、医療との連  
帯も必要になると思われますが、保護者の方への  
支援としてどう理解して頂くと良いでしょうか。（家  
庭での TEACCH モデルの支援がなかなか難しく、  
時間がかかることを考慮して）

（50代 支援学校教員）

Q68

日本において、本人を取り巻く地域のサポート、  
家族、学校、福祉サービス、行政などとの連携に  
ついて、どの様な連携が必要だとお考えでしょ  
うか。（施設職員）

Q69

成長した子供達のその後、就職や家庭などでど  
のように生活しているのか？つまづきや成功例な  
ど、具体的に教えて下さい。

また、社会に受け入れてもらうためのノウハウ  
や利用できる行政のサービスなど、教えて下さ  
い。（50代 教員）

Q70

学校を卒業後、就労する上での困難さと、その支援について、具体的な事例を教えてください。又、自立するためには、今の日本の教育のあり方として何が必要なのか、そのためにはどのような支援、働きかけをしたら有効なのか、お感じになっていることを伺えたらいいのですが。どうぞよろしくお願いいたします。

Q71

発達障がいの方が地域で暮らしていくためにどのような支援が求められているか教えてください。

Q72

子供たちの良いところを伸ばしていくために、家庭、地域、学校がそれぞれ担うべき事柄は何でしょうか？

Q73

障がいのある方の相談支援事業を行なっております。

成人された発達障がいをもつ方々の支援に課題を感じ、早期に相談支援につながる環境づくりを進めたいと考えるのですが、児童期を何とか通過してしまい、青年期になって問題が顕在化し、社会生活上の課題を抱えてしまうような方については、なかなか相談に繋がらない現状があります。

ご本人やご家族を孤立させないためには、より一層の支援者側の工夫が必要と感ずるのですが、教育や医療、障がい福祉といった支援者側から、どのような形でアプローチすることが、支援に繋がっていくうえで有効かについて、ご助言を頂ければと思います。よろしくお願い致します。（施設長）

Q74

TEACCH は、日本ではどこで受けられるのです

か？ 先生の紹介している TEACCH に関心を持っています。この春に支援学校を卒業する息子がいます。そのような指導はどこに行けば受けられるのでしょうか？  
(同様質問多数)

Q75

教諭として、生徒に自己肯定感や自尊心をもたせられる支援をしたい、と常々思っています。佐々木先生の今までの人生に影響を与えた書籍などを、いくつか教えて頂きたいです。

(支援学校教員)



——講演会メモ——

第二回 佐々木正美氏研修会

テーマ：「自閉症の人が地域で生活するために  
～理解者に恵まれて～」

講演：佐々木正美氏

日時：2012年4月28日 14:00～16:00

場所：練馬区立勤労福祉会館

主催：日曜クラブ ta-a-ta

共催：NPO 法人 I am OK の会

NPO 法人 手をつなご

協力：(社) 正夢の会

NPO 法人 東京都自閉症協会

後援：練馬区教育委員会

さよならあんころもちまたきなこ

